

2016年3月20日

## 福音書からのメッセージ

イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。

(ルカによる福音書23章46節)

わたしはこの時期になると、イエス様の生涯を描いた映画をよく見ます。たくさんの種類の映画が作られています。それぞれ捉え方や解釈の仕方など違いが見られます。しかしすべての作品に共通していることは、イエス様の十字架の場面が強烈に描かれているということではないでしょうか。

傷だらけで血だらけのイエス様がそこにいて、鞭打たれ、十字架を背負ってゴルゴダの丘まで歩いて行く。何度も倒れ、体を引きずるようにして歩むイエス様。そして十字架の上で叫び声をあげ、息を引き取られます。目を背けたい、耳をふさぎたい、そのような場面です。でもわたしたちは必ず、その場面に向かわなければならないのです。

わたしたちはこの時期、十字架へと向かうイエス様のことを心に留めます。わたしたちは自分の十字架を背負い、イエス様のみ跡を歩んでいるのでしょうか。自分の十字架どころか、イエス様を見捨ててしまっていないのでしょうか。祈ることを忘れ、心の目を閉じてはいませんか。イエス様との関係が重荷になり、わたしの前から消えてくださいと叫ぶ、まるで「十字架につける、十字架につける」と叫んだ民衆のように、イエス様に向かって叫んだことはなかったのでしょうか。

イエス様により頼むしかないのに、何度もイエス様を裏切ってしまう自分の姿に気づいてしまうとき、わたしたち自身がイ



エス様を十字架につけ、木に打ち付け、墓穴にいれた張本人であることを知るので

す。しかしイエス様は、このようなわたしたちのために祈ってくだ

さいます。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」。

わたしたちはイエス様を裏切ったユダです。イエス様のことを知らないと言ったペトロです。イエス様を十字架につける決断をしたピラトです。十字架につけると叫んだ民衆の一人です。しかしそんなわたしたちのためにも、イエス様はとりなしの祈りを祈ってくださいます。

わたしたちに与えられた希望はこれです。わたしたちがどんな人間でも、十字架の上からわたしたちのために祈ってくださる。わたしたちが赦されるよう、とりなししてくださる。だからわたしたちは、イエス様の十字架の元に進もうとすることができのです。自分の十字架を背負い、歩もうと促されるのです。

来週、わたしたちはイエス様の復活の日を迎えます。その日まで一日一日、イエス様の十字架への道を思い返しましょう。そしてわたしたちに与えられた大きなお恵みを感じ、共に喜びの朝を心からお祝いできたらと思います。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>